令和5年度第2回三郷市地域公共交通活性化協議会

1 開催日時：令和5年10月23日（月）14時00分～15時40分

2 開催場所：三郷中央におどりプラザ 会議室A・B

3 出席者 17名（委員総数24名）

（委員）

城津守会長（以下、城津会長）、多田聡委員、杉岡耕一委員、三浦裕樹委員、檜山雅紀委員、川島磨委員、関根肇委員、渡邊大輔委員（代理出席 山根）、相馬喜一委員（代理出席 広瀬）、中山俊夫委員、高橋清二委員、志子田健一委員、篠宮尚委員、阿久津邦子委員、茂呂義雄委員、信田貴久夫委員、鈴木雄委員

（事務局）

矢野まちづくり推進部理事兼副部長（以下、まちづくり推進部理事）
都市デザイン課：安達都市デザイン課長（以下、都市デザイン課長）、
岩間都市計画係長（以下、都市計画係長）、野副主任

4 協議会

（1）開 会

- （まちづくり推進部理事）

[開会]

[配布資料の確認]

（2）会長あいさつ

- （城津会長）

[会長あいさつ]

[委員の出席状況を求める]

- （都市デザイン課長）

[委員24名中17名が出席していることを報告]

- （城津会長）

[出席状況を受け、審議会の成立を報告]

- （全委員）

[委員名簿順に自己紹介]

- （都市デザイン課長）

[事務局紹介]

- (城津会長)
[会議の公開・非公開について説明を求める]

- (都市デザイン課長)
[会議の公開・非公開について説明]

- (城津会長)
[公開することについて意見聴取]

[意見なし]

- (城津会長)
[非公開議案はなしと判断]

[本日の傍聴者の申込み状況について、事務局より報告を求める]

- (都市デザイン課長)
[傍聴者なしであることを報告]

(3) 議 題

- (城津会長)
それでは、次第の3「議題」へと進めてまいります。議題（1）次期計画に向けたアンケート調査について、事務局より説明をお願いします。

- (都市計画係長)
[議題（1）について資料に基づき事務局より説明]

- (城津会長)
事務局より、次期計画に向けたアンケート調査について説明がありました。ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。よろしく申し上げます。

- (信田委員)
商工会の信田と申します。よろしくお願ひいたします。
この調査概要の中で、調査対象は15歳以上の市民2000人で無作為抽出になっております。これは地区別でやった方が、平均化した意見が出るというふうに思うのですが、いかがでしょうか。なぜなら地区別によって状況がだいぶ違うからです。そのように考えておりますけれども、いかがでしょうか。

- (城津会長)
ありがとうございます。
地区別の特性があるということで、考え方を事務局からご説明お願いします。

- (都市デザイン課長)
ご質問ありがとうございます。
地区別というのはおっしゃる通りだと思います。これまで私共は彦成地区、戸ヶ崎・栄地区と早稲田地区の3地区でアンケート調査を実施してまいりました。そのなかでそれぞれの地区の特性を把握したところがございます。それを踏まえて、今回市全域での無作為抽出という形でのアンケートを計画しているところですが、今のご意見を持ち帰らせていただいて、今後の対応を検討したいと考えております。

- (城津会長)
よろしいでしょうか。他にご質問ご意見等ございませんでしょうか。志子田委員お願いします。

- (志子田委員)
次期計画に向けたアンケートとなっているのですが、アンケートを出す住民は期待を持つと思います。次期計画以外に市民への情報提供など、何かお考えになっていることはあるのでしょうか。

- (城津会長)
事務局から回答をお願いします。

- (都市計画係長)
この次期計画の策定のプロセスの中に、地区別のワークショップを計画していますので、そのような形で皆様に情報提供を行いたいと考えております。また、その他公共交通全体に関する皆様へのアプローチというものを、事務局で考えを持っていないところでしたので、いただいたご意見をふまえてホームページを活用するなど、その方法について検討していきたいと思っております。

- (志子田委員)
ありがとうございます。

- (城津会長)
今のご質問の中でプロセスも含めて、市民の方をはじめとする皆様への情報提供が大事だというご意見だったと思います。事務局にて対応について検討をお願いします。
鈴木委員お願いします。

- (鈴木委員)

東京理科大の鈴木です。

2点ございまして、1点目はどれぐらいの回答数を想定されているのか、お尋ねしたいと思います。

また、アンケートが作り込まれていいと思ったのですが、10ページの6.問22は結構答えづらい質問だと思います。最も考えに近いものを一つ回答ということですが、どの選択肢でもいいと自分は思ってしまうので、もう少し回答しやすい工夫があるといいと感じました。

● (城津会長)

ありがとうございます。

2点ご質問ございました。アンケートの想定する回答数と、10ページの間22における回答の最適化について、それぞれ事務局から説明をお願いいたします。

● (都市計画係長)

委託業者と打ち合わせしている中では、20から30%ほどの回収率を想定していたと記憶しております。

また、10ページの6.問22につきましては、ご意見いただきましたので、複数回答にするなどして、内容を工夫することを検討してまいります。

● (鈴木委員)

ありがとうございます。

● (都市デザイン課長)

問22について、この設問の設定方法に悩んでいるところがありますので、もしよければ皆様のお知恵を拝借したいと考えております。今日、この場でなくてもお知恵を拝借できればありがたいと思っております。

● (城津会長)

ありがとうございます。

事務局から話がありましたように、今の時点で何かお気づきのこと、細かい小さなことでも構いませんので、この問いについて掘り下げのご意見はございませんでしょうか。

事務局からもありましたが、会議終了後でも構いませんので、どしどしご意見をお寄せいただきたいと思います。

他にご意見、ご質問はございませんでしょうか。信田委員お願いします。

● (信田委員)

市内のバス会社の皆様に出てきていただいているということで本当にご苦労様でございます。

ほぼあらゆる業種で運転手さんが不足しているというのが、世の中の実情かと思えます。

そこで、バス会社さんのご協力を得るために大切なことは、経営的に必要な乗客数を確保

できるかということだと思います。そのことを重要なこととして考えていただきたいと思います。

ただ、この資料を見ていると、それがあまり見当たらず、どうしたらいいかという視点がほとんどです。経営的に成り立つかどうかというような、私は商工会の立場のものですから、バス会社さんにも経営的に成り立つ内容をぜひともお考えいただければと思います。

● (城津会長)

ありがとうございます。

少し難しいご質問だったと思いますが、このご質問に答えられそうなことがありましたら、事務局からお願いします。

● (都市計画係長)

アンケートの対象はまず市民向けというところを考えています。また、市内バス事業者の路線の収支が厳しいということ、また、おっしゃられたように運転手の不足で大変困っておりますので、どのような支援ができるのかというところを検討させていただきたいと思います。いただいたご質問についてはお預かりさせていただいて、委託業者と検討させていただきたいと思います。

● (城津会長)

いかがでしょうか。

● (信田委員)

事務局が考えている中に、経営的な視点も含めてお考えいただければいいと思っております。それがバス会社さんの協力をいただける大前提になろうかというふうに思います。どうしても経済的な視点で物を言わせていただきますけれど、あらゆる件がそうだと思います。

よくお考えいただいて、やってよかったなというふうにバス会社さんに思ってもらえるような内容にさせていただければ、ありがたいということです。

● (城津会長)

ありがとうございました。

この協議会の開催の前に、三郷市地域公共交通活性化幹事会を開いておりまして、バス事業者や鉄道事業者をはじめとする交通事業者の皆様と事務局で議題の検討をさせていただいております。いただいたご意見をさらに踏まえて、幹事会の中でもそのような視点を持って幹事会を開催していきたいと感じました。

事務局の方から、その他何かございますか。

● (都市計画係長)

このアンケートは計画策定における一つのプロセスでございます。この市民向けのアンケートのなかにいただいたご意見を反映させるのは難しいと思いますが、事業者様の経営に関する視点も踏まえて計画の策定を行っていきたくてご意見をいただいて思ったところ

です。

● (城津会長)

この協議会の構成は市民の皆様、交通事業者の皆様と我々行政が三位一体になってやっていこうという協議会のたてつけになっておりますので、今いただいたご意見は非常に私も嬉しく思っております。それぞれの役割の中でやるべきことをしっかりやっていく、そして我々もしっかりやっていきたいと感じました。

その他、ご意見、ご質問等いかがでしょうか。

[意見なし]

それでは、まだ議題は続きますが、後ほどでも構いませんので、何かお気づきの点等ございましたらお願いいたします。

それでは議題の2へと進めてまいります。

令和5年度事業の進捗について事務局より説明をお願いします。

● (野副主任)

[議題(2)について資料に基づき事務局より説明]

● (城津会長)

事務局より令和5年度事業の進捗につきまして説明がございましたが、ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。よろしく申し上げます。

● (檜山委員)

京成タウンバスの檜山と申します。いつも関係の皆さんや、また市民の皆さんにはご協力いただきまして、大変お世話になっております。

この16ページの事業12 バス運転手の確保・育成というところで、冒頭に会長からもお話のあったとおり、また本日の資料にも明記していただいて大変ありがたいのですが、この運転者不足は我々バス事業者の目下、最大の課題です。

コロナ前に比べて輸送人員が戻らないとか、燃料が高騰しているとか、諸々の仕入れ価格のコストも上がっているとか、物価高は事業者も当然影響を受けますので、そういった経済的な問題ももちろんあるのですが、何よりもこの来年3月からの働き方改革対応というところで、当社も今運転者が10%足りない状況です。当然のことながら採用関係も強化をして、今まで以上にお金をかけて採用に力を入れて、また遅ればせながらですが、従業員の待遇を引き上げて、また住民に対する接し方も工夫しているところなのですが、大変な人手不足というのが現状です。

今から半年後の来年の3月から、いわゆる労働規制が非常に厳しくなります。例えば、今までバス業界では「通し」というのがありまして、これは1人の運転者が2日分の仕事をします。午前だけの仕事、午後だけの仕事というのが一般的なのですが、午前と午後両方の1日15時間から16時間働くというような運用を業界伝統的にやっておったのですが、これで

いわゆる人工を浮かしてやりくりをしています。もちろん従業員には申し訳ないのですが、休暇を控えてもらったり、あるいは別の日にずらしてもらったりというような話は当たり前で、そういうやりとりをしてもらって何とか回していました。労働規制が強化されることによって一日にここまでしか働けない、あるいは年間を通じてもこれだけしか働けないというのは、新たに発生してまいりますので、今でさえ非常に厳しいのですが、ますます今後厳しくなるという状況でございます。我々事業者は、採用確保や従業員の流出に様々努力をしておるというふうに考えておりますが、今後劇的な人員の充足がないと、今のダイヤを減便せざるを得ない状況になるというふうに思っております。

採用のイベントは三郷市さんが音頭とっていただいて、やっけていただいております。しかしながら、さらにご助成をいただかないと非常に厳しい状況だというふうに思っております。

今回、市民の皆さんもいらっしゃいますので、ぜひ頭の片隅に入れていただきたいのですが、一般的にバス会社というのは、一部の黒字路線で大半の赤字路線をカバーするといった、いわゆる内部補助をやっている状況になります。おそらく鉄道会社も似たようなところがあると思うのですが、当社は全体で15路線を運行しております、そのうちの黒字路線は3路線だけです。残りの12路線は赤字で、この三郷市内を走っている路線も年間相当な額の赤字路線ですが、なんとか内部補助でやりくりをしてやっています。恰好をつけた言い方をすれば、公共交通機関の矜持ということで、これまで長年、前身の京成電鉄時代も含めてやってきたつもりであります。今はそういった経済的な話とは別に運転者不足といった今までにない問題が発生してしまいましたので、この人手不足の観点でバスネットワークの維持が非常に厳しくなってくるという状況になりつつあるのではないかと思っております。

皆さんもニュース報道等をご覧になったと思いますが、大阪の方の事業者で完全に廃業されるというニュースもありました。地方でそのようなお話は以前からあったと思うのですが、大都市圏でもそういう状況が出てきておりますし、私ども京成グループでも減便や見直し、あるいは私の本社があります葛飾区でも他社様になりますが、もう既に平日ダイヤで走りきれなくて、土休日ダイヤで走らざるを得ない、そんな事業者さんもおられます。いよいよ首都圏あるいは都心部でも起きつつありますので、そういった現状にあるところを、ぜひ関係の皆さんと共有したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

● (城津会長)

ありがとうございます。

ご意見も含めて、この協議会の場で共有させていただいたという捉え方でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

私共は公共交通が苦しいという中で、何ができるか日々考えているところでございます。そのような中で、我々は「地域でみんなで支えて育てる公共交通」という言い方をさせていただいております。まずは運転手の確保や待遇改善というのは事業者様の方で頑張ってください。我々はバスを利用し売り上げを高めていき、事業者様を何とか応援したいということで利用者との間を取り持ち、支えていくことが私達行政の役割だということを考えております。

事業者様からの生の声を聞くことができ、大変私はよかったと思っております。事業者様

でも構いませんし、市民の代表の皆様も含めて、関連でも関連がなくてもよろしいのですが、何かご意見ご質問等ございませんでしょうか。よろしくお祈りします。

●（鈴木委員）

今の京成タウンバスの檜山さんのお話は大きいお話で、ただ現実でもあって、今後市の方針としてどうしていくかというのは、次の計画で重要になってくると思います。具体的に言うと、減便を前提とした公共交通網を地域の有償輸送も含めてやっていくのか、もしくは減便させないようにマネジメント等を頑張っていくのかと両軸であると思いますけれども、かなりここで力を入れないと、本当に地域の足がなくなってしまうというところで、市の方で頑張っていたきたいという思いがあります。

また、ご質問ですけども、事業4のサイクルアンドバスライドで、この対象は学生さんなどでしょうかということと、あとサイクルアンドバスライドとなったときに、駐輪場が重要になると思っていますけれども、その整備の状況等をお聞かせいただけたらと思います。

●（城津会長）

ありがとうございます。

前段のコメントありがとうございます。私達もしっかりやっていきたいと思います。

後段のサイクルアンドバスライドの状況について、事務局からお願いします。

●（都市デザイン課長）

サイクルアンドバスライドの状況といたしまして、対象を学生等に限っているわけではございません。大人の方で通勤されている方でも、特に料金を取っているわけではございませんので、誰でもご利用いただけるという状況でございます。

市内には11ヶ所のサイクルアンドバスライドがございまして、地域によって停められる台数にかなりばらつきはありますが、全体の台数としては520台前後を停められる施設になっております。例えば、道路整備に伴って発生した残地や水路を蓋掛けしたところなど、余剰地をうまく活用して、このサイクルアンドバスライドを整備しているという状況でございます。

●（城津会長）

よろしいでしょうか。

それでは、信田委員をお願いします。

●（信田委員）

運転手さんの不足ということで本当に深刻な問題だと思います。また、乗客数の確保ということ先ほど私は申し上げましたけれども、大切なことは経営的に必要な乗客数を確保することと、私も経済人ですので考えております。

そこで道路整備や区画整理などのまちづくりの進捗に合わせた路線バスの再編ということ、それから既存の市街化区域では人の動きが増えるような用途地域へ変更するように、空

き家対策でも私は再三申し上げております。用途地域を変えて人が住む動きを作っていくと、これは本当に乗客数を増やすための根本的な要因だろうと思っています。その辺りを踏まえて、一つお願いできればというふうに思っております。

例えば、彦成地域などでは現在第一種低層住居専用地域というふうになっておりますけれども、これでは個人の住宅と小さなアパートしか建てられない。また、交通事情が現在極めて悪いです。そのために土地建物の利用価値が低いということになっております。空き家が増え、人口も減少気味であります。それから高齢者の比率が高まっている。これを考えますと、本当にこのバス交通の便数を増やしていただくというのは本当にありがたいことであるし、またそうしていただかなければならないというふうに思っております。そのようなことを市として根本的な要素としてお考えいただけないものかというふうに思います。

●（城津会長）

ありがとうございます。

乗客利用者数を増やすために、土地利用、用途地域を変更して、地域の活性化をしてみてもどうかというご意見だったと思います。事務局いかがでしょうか。

●（都市デザイン課長）

ありがとうございます。従前から申し上げておりますとおり、交通と空き家の問題と土地利用は密接な関係があると考えております。彦成地域の変更につきましては、案を検討しているところでございます。

進捗といたしましては、現在素案として叩き台を作っているところでございまして、今後はその案を元に庁内で叩いていきまして、住民の皆様にお示しできる案を今後示したいと考えております。

●（城津会長）

よろしいでしょうか。その他に何かご意見等ございませんでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、次の議題3へと進めてまいります。

路線バス確保維持事業について、事務局より説明をお願いします。

●（都市計画係長）

[議題（3）について資料に基づき事務局より説明]

●（城津会長）

ただいま事務局より路線バス確保維持事業について説明がありましたが、今のご説明についてご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

● (檜山委員)

京成タウンバスの檜山でございます。

意見ではなく感想になりますが、資料の中段のところに、収入が年間 2000 万、委託料が 5000 万、年間運行経費 7400 万となっています。赤字額を埼玉観光さんがご負担されているということで大変な状況と拝察しましたが、ここで意識合わせをしなければならないと思います。委託料を 5000 万円突っ込んで何とか賄っている路線ですので、これは行政の方も大変なご負担だと思います。事務局の皆様はご調整に大変ご苦労されているのではないかと思いますのですが、一方で年間運行経費が 7400 万に対して収入が 2000 万円しかない大変な非常に採算が厳しい路線だと思います。

当社の路線でもこれに近い路線があるのですが、正直この水準になってしまいますと、お客さんを例えば 2.5 倍にしないと、ペイしないことになります。例えば、通勤通学客はほぼ平日の月曜から金曜まで毎日利用しているので 2.5 倍にはできないですし、また病院まで 2.5 倍行ってくださいというも行かないですし、それをレジャー輸送や行楽輸送だけでカバーするのは非常に難しいと思います。採算が厳しいということも認識をしないといけません。昨今の乗務員不足等もあってなかなか厳しい状況が続いているというふうに思います。まとめませんが、以上でございます。

● (城津会長)

ありがとうございます。

今のご意見は私共も悩んでいるところでございまして、路線バス確保維持事業に踏み込むまでの経過もいろいろとございましたので、何とか市の方で支えていきたいと、そのようなところから始まった事業でございます。そのような中で埼玉観光様に名乗り出いただきまして、今に至るわけなのですが、このままというのも難しいところがございますので、このような協議会の場を借りて、皆様と知恵を出し合いながら、一番いい形を見つけていきたいというのが私の思いでございます。

その他、何かございますでしょうか。

● (三浦委員)

京成バスの三浦と申します。お世話になっております。

今の檜山さんの意見の補足の様な形なのですが、大前提として三郷市さんの委託料 5000 万があっても、埼玉観光さんは赤字になっています。これが埼玉観光さんにとって大きな負担なので、これはやはりあってはならないというふうに考えております。この事業をやること自体が、埼玉観光さんにとって負の状況になっています。それは何とかしなければいけないという前提の中で、もう少し長いスパンで考えていくと、彦成地区で既存の路線がなくなって、現在埼玉観光さんが代替路線をやっているという位置付けだというふうに認識しています。他の自治体ですと、コミュニティバスはないのだけれども、一般路線バスの便数が少ないから何とかして欲しいと言うと、コミュニティバスを検討するか、もしくは先ほどのアンケートにもあったような新しいモビリティサービスという意見が出てくるというところがあります。お客様の増加がなかなか見込みにくいというなかで、何とか事業者の採算を考えなければいけない一方で、自治体が既に相当な金額を拠出して路線を維持

しています。不便地域が増えたり、または声が出ることで、さらに自治体が財政出動するのは、本来あってはならないので、慎重に検討すべきと思っております。

何が言いたいかといいますと、例えばこの市内で既存のバス事業者さんがこの路線は撤退しますとなると、ここもどうしますか、また税金を投入しますとなると思います。そのように数千万単位の税金をあちこちに入れて、路線を維持するというのがこのご時世で本来望ましいのかというところもあると思います。埼玉観光さんに赤字を背負わせないことが一番なのですけれども、それ以上に先ほど檜山さんがおっしゃったことと近いのですけれども、1路線だけで委託料が5000万ですので、他の路線も5000万となると多分無理だと思います。そうなったときに、その声が出てからどうしようでは議論は遅くて、そうなることも想定して、ここの輸送をどうするかという観点が必要です。

収支改善ということで収入、運賃を変えるという話もあったと思いますが、例えば埼玉観光さんも多分人手不足は間違いないと思いますので、減便をするあるいは土休日ダイヤ対応にするなど便数を落として、改善した上で委託料を圧縮することで、埼玉観光さんの収支を改善できると思います。

次に何かあったときに、手を打てるような形まで見越したこの事業のあり方ということをご検討していただければということで、参考までに述べさせていただきました。

● (城津会長)

ありがとうございます。

事務局からご意見やご提言は何かありますか。

● (都市計画係長)

その辺りも含めて埼玉観光様から色々なご意見をいただいているところでございます。三郷市としても近隣自治体にコミュニティバスの運行状況に関するヒアリングを行っていただき、今おっしゃっていただいたように、支出が増えているということに悩んでいる自治体さんもいるということをご把握しております。

埼玉観光様の路線バス確保維持事業がどのような形が適切なのかについては、今いただいたご意見を参考にしながら、将来的にどういったものがよいか検討していきたいと思っております。

● (城津会長)

ありがとうございます。

その他、ご意見ご質問等いかがでしょうか。信田委員お願いします。

● (信田委員)

先ほどのお話の中で、採算を取るためには減便をするということで、減便も一つの考え方というお話がありました。

ただ、減便となりますと、利用価値がなお減ってくるものですから、乗客数をもっと減ることが私は考えられると思います。ですから、むしろゾーニングを考えるような根本的な対策や、先ほども言いましたけれども、乗客数が必ず増える、根本的に増えるという対

策を取ることが必要なのではないかと考えております。

減便と言いますが、今でも朝夕は1時間に1本で、その他の時間は2時間に1本ぐらしかありません。やはり乗客の身になってみると、アピールできる本数は少なくとも1時間に2本ぐらいで、朝夕は3本ぐらい欲しいのです。そうすると、当てにしてみようという気にもなります。それは当然私よりも遥かにご存知のはずですけれども、そんなふうを考えておりますので、ぜひとも根本的な対策を市の方としては考えていただきたいと思っております。

● (城津会長)

ありがとうございます。京成タウンバスの檜山さんお願いします。

● (檜山委員)

今のお話は地元のご利用者様からすると、本当に切なる声だと思えます。私共バス事業者も時にはバスの利用者になったりしまして、実際自分達のバスを使うときがあるのですが、この26ページの資料を見ますと、必要な経費の3分の1ぐらしか収入がないですから、かなり難しいのではないかと思います。

色々と活性化策は、今まで当然三郷市様もご努力されていらっしゃいましたし、あるいは事業者さんもやっていたらっしゃった上で、このような状況になっています。現実的に運転者が足りない、あるいは行政でもその経過を把握しているというところがございます。減便すると利用者が減るのは我々も百も承知なのですが、現実的に運転者が足りないことを自治体も把握しているというところからしますと、利用者の方にも一定程度ご理解とご協力いただかないと、なかなかこの問題は前に進まないのではないかと思います。

委託料なしで採算ベースに乗せるには、2.5倍も利用者を増やすというのは非常に現実的ではないと思っておりますので、そのようなことも踏まえた議論を我々はこの会議の構成員ですから、色々と知恵をお借りしながらやっていく必要があると思っております。

● (城津会長)

ありがとうございます。事務局お願いします。

● (都市計画係長)

事務局の方としても、住民が増便を願っているということはアンケートや説明会などで重々把握をしています。

埼玉観光様は業務委託の中でバス3台をお持ちです。法律上1台は事務所にいないといけませんので、残りの2台で運行しているという状況です。運行距離を鑑みて、精一杯の時間で今運行していただいているというところですよ。

先ほど運行計画を変更したという話をしたのですが、新三郷駅へ延伸する変更を行いました。ニーズが大きかったのが、新三郷駅までの経路を増やしましたが、そうするとバスの走る距離が長くなります。今まで短い距離で往復していたものが距離が長くなると、その分時間がかかりますので、運行本数としては減便になっています。

なお、最近では認知していただいたのか、想定よりも利用者の方が少し増えてきています。

また、周辺エリアでは病院の移設がございまして、住民の方から病院が空いている時間帯にバスが欲しいという意見も聞いています。

何か工夫できることはないかということを考えることは行政側の仕事であるので、お二方の意見を聞きながら、埼玉観光さんの生の声を聴きながら、何ができるかということを引き続き検討していきたいので、よろしくお願いします。

● (城津会長)

ありがとうございます。

非常に難しい問題だと思っております、なかなか解決策はないと感じております。また、お金で解決すればいいということに関しても、私共は税金をお預かりしていますので、違う部分もあるのだろうと感じております。

そのような中で持続可能な公共交通というテーマでやっております。しっかりご意見をいただき、議論をしながら、進めてまいりたいと思います。ご意見は大歓迎でございますので、引き続きよろしくお願いします。

その他、何かございませんでしょうか。志子田委員お願いします。

● (志子田委員)

民生委員協議会の志子田と申します。

素人でよく分からないので、場違いな発言かもしれませんが、同じ県内のときがわ町のあるところに行こうと思って、数年前までバスが走っていたのですが、バスがなくなって、デマンドのスタイルを取っているところがあります。経費的にはどちらがかかるのか、よく素人で分からないのですが、定期的に走らせるのが難しいのであれば、呼んだら来るというような考えも可能なかどうか、少しご検討いただければと思います。

● (城津会長)

ありがとうございます。

● (都市デザイン課長)

我々も各自治体の交通事情を研究したり、研修の際に乗りに行ったりしたことがございます。今の現在の計画の中ではデマンド交通に関する事例ですが、これから作ろうとしている次期計画にまず位置付けて、デマンド交通などの新しいモビリティの導入に向けた取組を行っていきたいと考えています。

● (城津会長)

鈴木委員お願いします。

● (鈴木委員)

今のお話で言うと、私は少し前まで収支率10%ぐらいのところまで公共交通計画を作っていたので、かなり大変な思いをしたことがあります。

デマンドにしたからといって、収支がものすごく良くなるというわけでもなくて、デマン

ドにすると一日中誰かが予約の対応をしなければいけません。もちろんデマンドも一つの手ですけれども、その中で何がいいのかということ色々な交通を含めて、許可登録を要さない輸送も出てきていますし、その辺も含めて総合的に色々な交通を考えていく必要があるというふうに感じています。

● (城津会長)

ありがとうございます。

私も鈴木委員と同じようなことを申し上げたいと思っていたところですけども、結局のところ特効薬はないと思っております。色んな選択肢を見て何が違っているのか、行政の負担というと結局市民の皆様の負担になるわけですので、一番効率の良い最小限の負担で移動の手段が確保できるような方策を探していくことになると思っております。

その他、ご意見はございますでしょうか。

● (篠宮委員)

私も素人なので、大変申し訳ないのですが、デマンドというのは携帯やスマホで呼ぶような感じでしょうか。

9万人の移動のために5000万円をかけていて、それを市が税金で補填しているもの、そういう見方をしてはいけないのでしょうか。

● (城津会長)

大丈夫です。

● (篠宮委員)

大丈夫ですか。

ますますバスを使う方達が減ってしまうことが予想されるという考え方と、あと信田さんの言われるように地域を活性化することによって増やしていこうという考え方があるのですが、その間で何が一番いいのだろうとすごく難しいと思ったところです。

ただ、1時間に1本であれば、スマホで呼んだら迎えに来てくれるというのは非常に便利だと思います。旅行での観光地や海外ですとスマホで来てくれます。利用者の方にとって、どういうものが便利なのかと思った場合に、税金を沢山かけて負担するのであれば、そういう形での負担というのも、もしかしたらありかもしれないということを思っていました。

的外れで申し訳ございませんが、以上です。

● (城津会長)

ご意見ありがとうございます。事務局から何かありますか。

● (都市計画係長)

デマンド交通というのはその中でも種類が色々あるのですが、事例によく上がってくるのはタクシー業者が運行するものになります。おっしゃられたとおり、スマホで予約するとエリア内に複数あるバス停のような場所に迎えに行くか、もしくは家に直接迎えに行く

のか、種類はいろいろとあるのですが、基本ハイエースぐらいの大きさの車両で運行しているというのがデマンド交通です。

デマンド交通を導入している事業者や自治体があるということ把握しているので、可能性を市では検討していますけれども、路線バスと大きく違うのは輸送量だと思っています。詳しい研修を受けたわけではないのですが、私としては輸送量が大きく違うと思っています。特に通勤通学の輸送量をデマンド交通で賄うのは難しいと思っています。また、デマンド交通を導入したときに、便利ということで一部のお客様がデマンド交通を利用すると、路線バスと重複していたときは路線バスがさらに赤字になります。つまりエリアの設定や時間帯など、複雑に条件付けしてやらなければ、路線バスを守りつつ皆様のニーズを取り入れることは難しいので、今後検討していかないといけないと考えております。

● (城津会長)

他にお願いしたいのですが、いかがでしょうか。茂呂委員お願いします。

● (茂呂委員)

今までのお話から少しずれてくると思うのですが、バスのドライバーさんが非常に不足しています。その中で運行していくことが非常に難しい。地域の発展がますます遅れているという影響もあるわけです。

まず、運転手さんやドライバーさんがいなくても、三郷市を6分割くらいにして、その地域でどのくらいニーズがあるか分かりませんが、その地域で車が動かせるような方策を考えていかなければなりません。

11 ページの間 24 の中において、2 番目に「低速の小型電動車両で住宅地や集落を運行するバスサービス」とあります。もしアンケートの中で多くなった場合は、市ではこれを実行できるのか、実現できるのかどうか。検討するだけではこの会議を何度やっても進んでいかないと思います。検討するのではなくて、実現できるような方向で考えていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

● (城津会長)

ありがとうございます。

ご意見だと思いますけども、事務局から説明があればお願いします。

● (都市デザイン課長)

先ほど会長からも地域で支えて育てる公共交通というキーワードやコンセプトの話がございました。我々もこれまで戸ヶ崎地区をはじめとした地区で説明会をやってきまして、皆様と一緒に考えていきたいという考えをお伝えさせていただいております。

この間 24 の中で、例えば「きめ細かく運行するバスサービス」の回答が仮に多かったとしても、その後我々がすぐに実施するというわけではなくて、地域の声を聞きながら、どのような運行や交通がいいのかということの説明した上で、取り組んでいきたいと考えております。

● (城津会長)

ありがとうございます。

もう少し柔らかく言うと、ご質問にありました 11 ページの 2 番については、近隣だと松戸市の坂が多い地域で、地元の方が運営して走らせているという前例が近所でもございます。

先ほど茂呂委員がおっしゃっていたのは、細かい単位でその地域をカバーするものがあつたら良いというお話だと思います。課長が申し上げたのは、我々が地元の方に押しつけるような形で持っていても、なかなか成立はしませんから、もしやることになるのであれば、地元にしっかり入っていきたいということでございます。

また、別の質問の中であつたと思うのですが、既存バスのお客様を奪い合いしてもしょうがないので、既存のバス、タクシーとうまく調和させながら、両方がうまくいくようにできたらよいと思っています。実現に向けてということでやりますと言えないところはもどかしいのですが、そのような気持ちを持って取り組んでいるということでございます。

他に何かいかがでしょうか。ご意見はございますでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、議題の 4 へと進めてまいります。

三郷中央駅におけるバス停再配置案について事務局よりご説明をいたします。

● (野副主任)

[議題 (4) について資料に基づき事務局より説明]

● (城津会長)

ただいま事務局より、三郷中央駅におけるバス停再配置案についてご説明申し上げました。ご質問等はございませんでしょうか。

● (三浦委員)

京成バスの三浦でございます。

当社が全く入っていないので、参考までにお聞かせ願いたいと思ったのが、8 番まで整理をされていますが、1 番から 7 番はロータリーの中で、8 番は路上なのであえて最後に番号を振ったということでしょうか。

● (城津会長)

8 番のバス停における考え方の詳細についてご説明をお願いします。

● (三浦委員)

何を言いたいか先にご説明いたしますと、三郷中央駅の改札を出てこられたという視点で見るときに、新しい 3 番乗り場が前にあって、左に 4 番があるように見えるので、7 番で終

わってしまって、8番がないのではないかというふうに戸惑われる方が多いと思います。他の当社の乗り場でも番号が続かないことで利用者が分かりにくいところがあるので、お考えがあれば結構ですが、もしお考えがなければ、東武バスさんの金町54系統のところから1、2、3、4、5番と振っていただいた方が分かりやすいと思った次第です。

● (城津会長)

ありがとうございます。人の感じ方に関するご質問だったと思います。
事務局からお願いします。

● (都市計画係長)

事務的に振った番号ですので、いただいたご意見を参考に将来的にはバスの表示というところでぜひ反映させていきたいと思います。

● (城津会長)

よろしいでしょうか。せっかくやりますので、使いやすくしたいと思います。ありがとうございました。

その他お気づきの点等はございませんでしょうか。志子田委員お願いします。

● (志子田委員)

基本的な質問なのですが、従来の4、5、6、7番のバス停のところにはバス停はなくなるのでしょうか。この場所は何か違う目的でお使いになるという計画があるのでしょうか。

● (城津会長)

ありがとうございます。

改修前の図面で28ページのバス停の配置にて、4、5、6、7番乗り場の部分がなくなっているということで、事務局の方で改修プランの根っこの部分から説明してもらおうと思います。よろしくをお願いします。

● (都市計画係長)

ご質問にあった現在の4、5、6、7番のバス停の場所というのは、多目的に使える広場として整備される予定なのですが、この事業のスタートがバスの再編を目的としたというよりは、三郷中央駅の駅前広場でにぎわいを創出するために、広場を増やすというところからスタートしています。今の4、5、6、7番には車路がなくなり、車が通過する場所ではなくなりまして、広場として歩行者が利用する場所になります。

● (志子田委員)

バスの利用者からすると6番と7番は駅に近いですから、使いにくくなるという感じが非常にします。

また、同じ金町54系統が5番と8番で分かれて、乗客は混乱しないのかという感じがし

ます。

● (城津会長)

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

● (都市計画係長)

最後の5番と8番というのは、新しい案の方の5番と8番かと思います。

スタートが駅前広場の広場を広げるということからスタートしていきまして、ロータリー内ではバス停が足りず、車路の部分にバス停を計画しているところです。また、事務局だけで考えたときに、行先だけで揃えてみたりしたのですが、バス事業者様のご意見を伺うと、三郷中央駅を通過する路線と、ここで折り返す路線とあるので、実際に車路を使える路線は実はそんなになかったということで、半ば消去法のような形で決まっています。おっしゃられたように方面で乗り場が飛んでいるということはあろうかと思っています。

市民目線で言うと難しいということでご意見をいただきましたが、案内の仕方や標識による見せ方でカバーできればと思ったところです。バス事業者様からご意見いただいて考えたところですので、事務局のなかでも何ができるか、引き続き検討したいと思っています。

● (城津会長)

ありがとうございます。

訂正と補足をさせていただきたいのですが、担当係長の方でまず広場ありきというお話がありましたが、決してそういうことではございません。バスエリアが広いというのは、今のバスの運行量に対して少し大きいのではないかという視点からの検討を行ったというものでございます。

そのような中でバスがどのように再配置ができるかということを考えながら、形が決まっていきまして、その上でバス停の個別の位置を調整しているところでございます。

係長の説明について、訂正をいたしました。

その他、何かいかがでしょうか。

● (多田委員)

東武バスセントラルの多田と申します。

この乗り場の分け方なのですが、営業所の方に非常にお問い合わせがございまして、同じ金町方面で中央通り経由と大膳橋経由ということで、お客様の目的地が間違ってしまうということが非常に多くございます。

その辺の意見を集約した中で、金町方面ですが、行き先を分けた方がいいというお話をしたところ、このような場所がございましたので、この案で事務局の方にご提案させていただきました。

● (城津会長)

ありがとうございます。

他に何かご意見ございますか。

[意見なし]

ありがとうございます。

また、次回以降も話題になると思っております。それでは、議題の5へと進めてまいります。

公共交通に関する情報共有といたしまして、子育て移動支援事業について事務局よりご説明をお願いします。

● (都市計画係長)

[議題(5)について資料に基づき事務局より説明]

● (城津会長)

子育て移動支援事業の関連で、ご質問等はいかがでしょうか。

● (鈴木委員)

もう1回内訳を教えてくださいと思います。

● (都市計画係長)

内訳については、案内送付数が413件、申請数が298件になります。

そのうち、タクシー利用券が90件、路線バス回数券が9件、自動車燃料費助成券が199件となっています。

● (城津会長)

他にご質問等いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

以上が次第の3、議題に関する部分でございます。議題については終了いたします。

続きまして、次第の4の「その他」に進めてまいります。

(4) その他

● (城津会長)

委員の皆様より情報提供、ご意見等ございましたらご発言をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

特にございませんでしょうか。

[意見なし]

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。

委員の皆様におかれましては、円滑な議事の進行にご協力いただきましてありがとうございます。それでは事務局に進行をお返しいたします。

(5) 事務連絡

● (まちづくり推進部理事)

続きまして、次第の5「事務連絡」といたしまして1点ございます。

次回の協議会の開催につきましては、今年度末の開催を予定してございます。

バス事業者の皆様や、関係機関の方には別途幹事会のご案内をさせていただきます。

皆様お忙しいとは存じますが、日程が決まり次第、開催通知を送付させていただきますので、ご協力の程、よろしく願いいたします。

(6) 閉 会

● (まちづくり推進部理事)

それでは以上をもちまして、令和5年度第2回三郷市地域公共交通活性化協議会を閉会といたします。皆様お忙しいところ、ご協力を賜り誠にありがとうございました。